



親と、10代・20代の 子供のデバイス利用状況

2022年度 McAfee® Connected Family Study — 日本



調査概要

マカフィーはこのたび、Global Connected Families Study (ネット接続している家族に関するグローバル調査) を初めて実施しました。理解と教育と能力強化を通じて、接続された世界で家族の安全を守るという当社の取り組みをさらに補強しようとするものです。 10 カ国を対象として、親とその子供に聴き取り調査を行い、オンライン上の接続と保護対策の状況について把握に努めました。

その結果、オンライン上の保護対策に関する全般的な考え方と、いくつかの微妙な違いが明らかになっています。いずれも、親と子の間には、オンライン生活を楽しみながら安全に過ごすという観点で対立関係があることを物語るものでした。

全体の調査結果は、[こちら](#)にあるグローバル レポート完全版でご覧になれます。この地域別レポートでは、日本固有の調査結果をまとめています。家族の状況には、世界的な傾向との相違が見られ、独自の傾向が確立している場合もありました。

- **比較 1:** モバイルの成熟度
- **比較 2:** 上位のデバイス
- **比較 3:** サイバーいじめの頻度と懸念
- **比較 4:** アカウント窃盗と金融情報の漏えい
- **比較 5:** ジェンダーによる保護のバイアス



日本独自の傾向

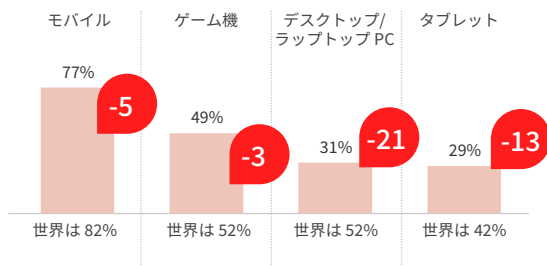
子供のデバイス利用は他の国と比べて立ち後れており、日本の子供はサイバーいじめやネット上のリスクの発生率が最も低くなっています。

他国と比較すると、日本の子供のデバイス利用は全体的に立ち後れており、なかでもデスクトップ/ノート PC (21%)とタブレット (13%) の利用率の低さは顕著です。モバイルとゲーム機の利用率については、それほど目立った差はなく、その差は 5% 以内に収まっています。

モバイルでの行動について見ると、日本の子供は、モバイルでストリーミング配信の音楽を聴いたり、ゲームをしたり、長編動画を見たりする割合が極端に低いという結果が出ています。一方、ネットの閲覧や通話については、海外の子供とほぼ同じ割合で利用しているという回答でした。

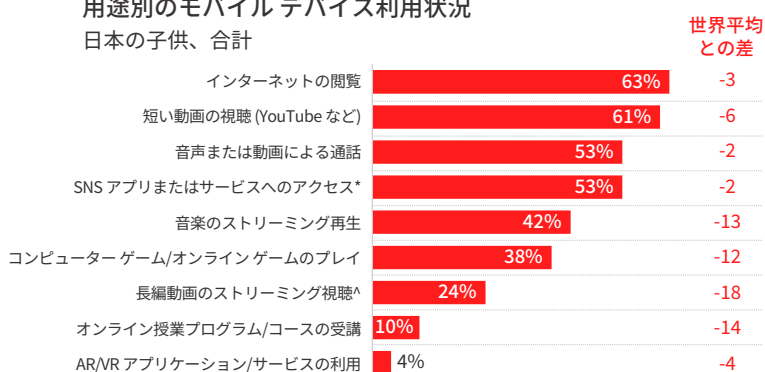
子供のデバイス利用状況

日本の子供、合計



用途別のモバイル デバイス利用状況

日本の子供、合計



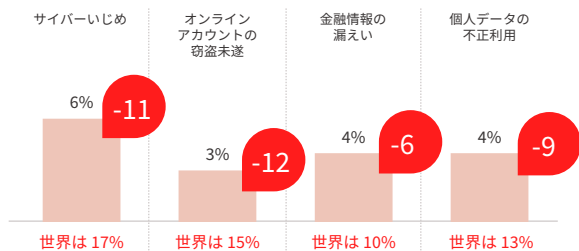
C1. 次のうち、どのデバイスを使用していますか? (ベース: 日本の子供、n=1,062) | C2. モバイル デバイスを次の用途に使用していますか? (ベース: モバイル デバイスを使っている日本の子供、n=823) *例あり (Facebook、Instagram、LinkedIn など)。^例あり (映画、テレビドラマなど)

デバイス利用率の低さは、オンラインのリスクに関する経験の少なさと一致しており、サイバーいじめの経験が最も少ないという結果が出ています。その他のリスクも世界平均を下回っており、たとえばアカウントの窃盗未遂はわずか 3% と、世界平均より 12% も低くなっています。

回答によると、日本の親は、子供のモバイルデバイスでセキュリティや安全性の対策を施すことが圧倒的に少ないことがわかりました。ネットの閲覧履歴やメール履歴をチェックしているという回答はわずか 9% で、世界的な回答と比較すると 23% 低い割合です。そのほか、保護者機能ソフトウェアの使用 (15% 少ない)、特定サイトへのアクセスの制限 (14% 少ない)、対面での監視 (13% 少ない) などに関しても、世界平均と比較して 2 桁少ないという結果が出ています。

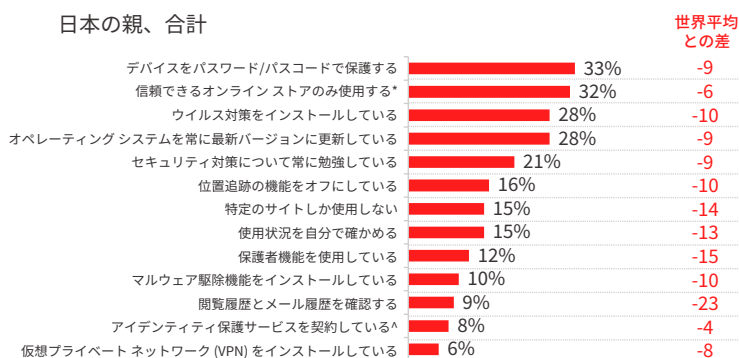
子供が体験したオンライン リスク

日本の子供、合計



子供のモバイル デバイスで実装しているセキュリティ対策

日本の親、合計



C15A. これまでに、サイバーいじめにあったことがありますか? | C16A. これまでに、オンラインアカウント (ゲーム、SNS など) の窃盗未遂を経験したことはありますか? | C17A. これまでに、金融情報 (銀行、クレジットカード、パスポート、その他の個人情報) の漏えいを経験したことはありますか? | C18A. これまでに、個人データの不正利用 (スパム、詐欺、自分の連絡先へのウイルス送信未遂) を経験したことはありますか? (ベース: 日本の子供、n=1,054) | PC8. 子供が使うモバイル/スマートフォンデバイスに対して、次のいずれかのセキュリティ対策/プライバシー対策を実行していますか? 該当するものをすべて選択してください。 (ベース: モバイル/スマートフォンデバイスの使用について子供に指導している日本の親、n=1,090) *例あり (Google Play、Apple Store など)。^例あり (メールアカウントや銀行口座の不正利用の監視)



比較 1: モバイルの成熟度

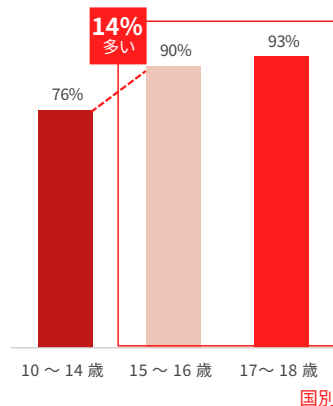
日本の子供のスマートフォン利用率は10代なかばで高くなっています。一方、10～14歳の子供は、他国の同年代の子供と比べて、モバイルデバイスの利用率がかなり低くなっています。

ここで述べているように、子供のモバイルデバイス利用率は、世界的に見ると、10代なかばに近づく急に増えることがわかっています。15歳から16歳にかけてのほぼ同時期に、子供のネット利用は本格化します。この時期にモバイル利用率は大幅に増え、そのまま大人になってからの利用率に近づきます。

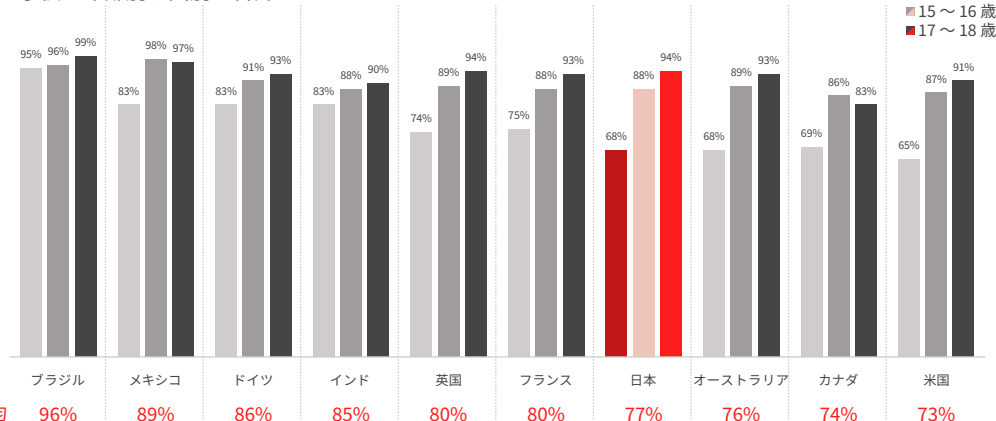
ただし、スマートフォンやモバイルデバイスを使ったオンライン生活はもっと早くから始まっており、その延長線上でアプリ、チャット、エンターテインメント、ソーシャルメディアなど、多様なインターネットに触れることになります。そこでは、メリットとリスクが隣り合わせです。

モバイル/スマートフォンデバイスの利用状況

子供、年齢別の合計



子供、年齢別、国別の合計



C1. 次のうち、どのデバイスを使用していますか? (ベース: 子供、n=12,057)

日本の子供も、この点に関しては、世界の他の国の子供と同じ傾向が当てはまります。ただ、スマートフォンの利用率が10～14歳の年齢層では世界平均を8%も下回っている点は注目する必要があるでしょう。それでも、10代なかば以降から大人になる年齢にかけて、数値は世界平均に近づいています。



比較 2: 上位のデバイス

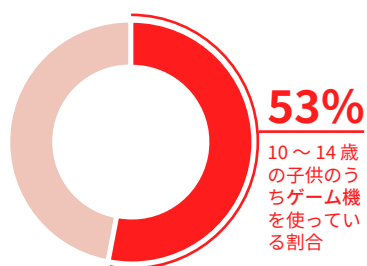
親子ともスマートフォンが 1 位を占めるものの、日本の子供の場合、スマートフォンとゲーム機をほぼ同じくらい重要だと回答した割合が高くなっています。

日本では、親子とも、モバイルデバイスが生活の中で最も重要だと回答しています。親は、スマートフォンが 65%、デスクトップまたはノート PC が 57% と答えており、モバイルの重要性が上位 2 つに入りました。10 代と 20 代でも、スマートフォンが最上位である点は同じですが、その割合は 81% で、それに次ぐゲーム機の 79% とは僅差です。世界的に見ると、スマートフォンが常に最上位、ゲーム機が常に 2 位という明瞭な差があるのとは対照的な結果になりました。

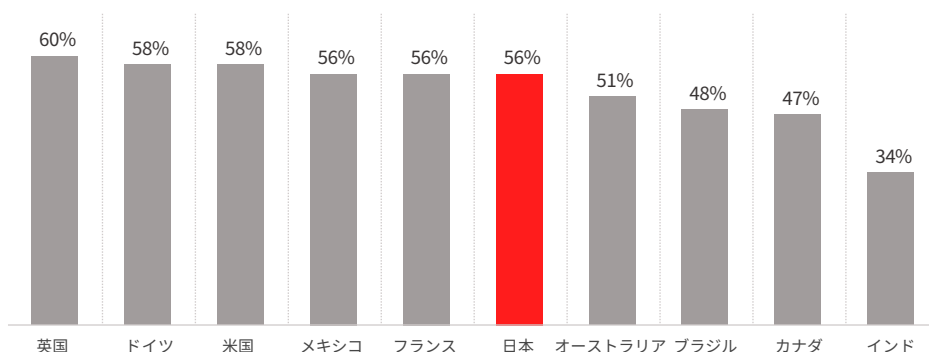
日本の 20 代と 10 代前半では、ゲーム機の利用率が平均よりやや高く、56% がオンライン接続したゲーム機で遊んでいると回答しており、これは他の国より 3% 高い結果となっています。

ゲーム機器の利用状況

子供、10～14 歳



子供、10～14 歳、国別

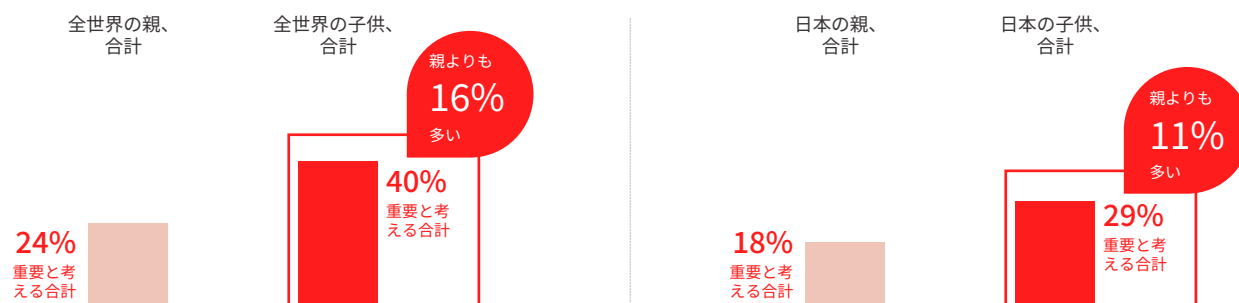


C1. 次のうち、どのデバイスを使用していますか? (ベース: 10～14 歳の子供、n=7,571)

レポート

さらに興味深い結果があります。家族とのつながりを保つうえでゲーム機が3番目に重要だと回答した子供たちは29%で、これは世界平均の40%を大きく下回っています(2位はタブレットの31%)。一方、親が家族とのつながりでゲーム機を重視する割合はかなり低いようで、18%にとどまっています。

家族とのふれ合いでゲーム機が重要だと思うかどうか



ですから、家族とのつながりを保つうえで最も重要なデバイスはスマートフォンだと親子とも回答しており、親が70%、子供が73%という結果だったのも、驚くにはあたりません。世界平均では、親が59%、子供が64%でしたので、日本はそれを大きく上回っていることになります。



日本の20代と10代前半では、ゲーム機の利用率が平均よりやや高い。



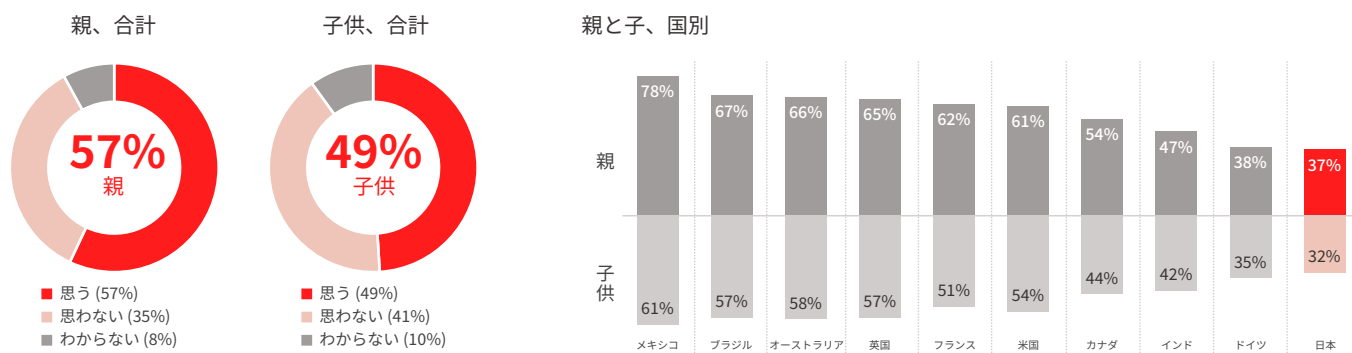
比較 3: サイバーいじめの頻度と懸念

スマートフォンが最も重要なデバイスだと主張する子供は、早くからサイバーいじめを受けるといったリスクを経験することが少なく、この点も他の多くの国の状況と異なっています。

ソーシャルメディアへの投稿については、親子ともに感情が入り交じっています。いじめや虐待につながる可能性があるからです。世界的に見ると、57%の親がいじめや虐待を懸念しており、49%の子供が同じ懸念を抱いていると回答していました。

日本では、この数値が他国の家族を大きく下回っています。懸念するようになった親は37%と世界平均より20%も低く、また子供についても同様に懸念しているのは32%と、世界平均より17%も低くなっているのです。

SNSや掲示板への投稿が子供のいじめや虐待の原因になると思うかどうか



PC15B. FacebookやTiktok、他の掲示板といったSNSへの投稿が、子供のいじめや虐待の原因になると思いますか? (ベース: 親、n=15,156)
 C15B. FacebookやTiktok、他の掲示板といったSNSへの投稿が、自身のいじめや虐待の原因になると思いますか? (ベース: 子供、n=12,030)

この数値が最も高かったのはメキシコで、親が78%、子供が61%に達しました。ブラジルも、親が67%で子供が57%と、それほど離れていません。ドイツのグラフの端が日本に近い点にも注目してください。親が38%で子供が35%と、日本に近い結果となっています。

サイバーいじめを経験したことがあるという回答は、日本の子供では6%どまりです。世界平均は17%なので、日本は11%も低くなっています。報告されている割合の最大が米国の28%、最小がドイツの8%です。



比較 4: アカウント窃盗と金融情報の漏えい

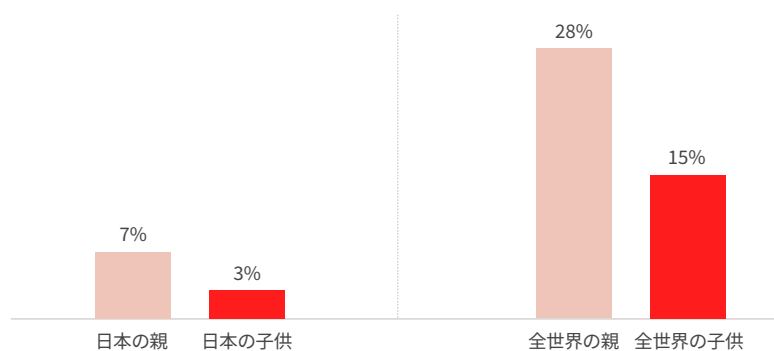
サイバーいじめの報告率が低いことに加え、プライバシーやセキュリティに関わるその他のオンライン脅威についても経験率が低いと報告されています。

日本でオンライン アカウントの窃盗未遂が報告されたのは、親が 7%、子供は 3% でした。ただし、この報告には若干異なる点があります。子供がネット上でアカウント窃盗に遭ったことがあるかという質問に対しては、3% の親が「ある」と回答しており、日本はこの数字が親子の間で一致している珍しい国となっています。(他の国では、親の認識が子供からの報告より 1 ~ 2% 低いのが一般的です)。

日本の親の 7% という数値は、世界的に見てかなり低い数字で、世界のデータでは 28% となっています。これは、子供についても同じです。世界的には 15% で、日本の子供の報告より 12% 高くなっています。報告の違いという点では、子供が窃盗に遭ったことがあると回答した保護者は世界で見ると 14% で、やはり子供より 1% 低い結果でした。

オンライン アカウントの窃盗未遂

報告されている割合



金融情報の漏えいについては、親子どちらからも報告されています。該当するのは、銀行口座、クレジットカード、デビットカードなどの情報、その他の個人情報です。日本では、8% の保護者が過去にこれを経験したと回答しており、4% の子供が経験したと回答しています。

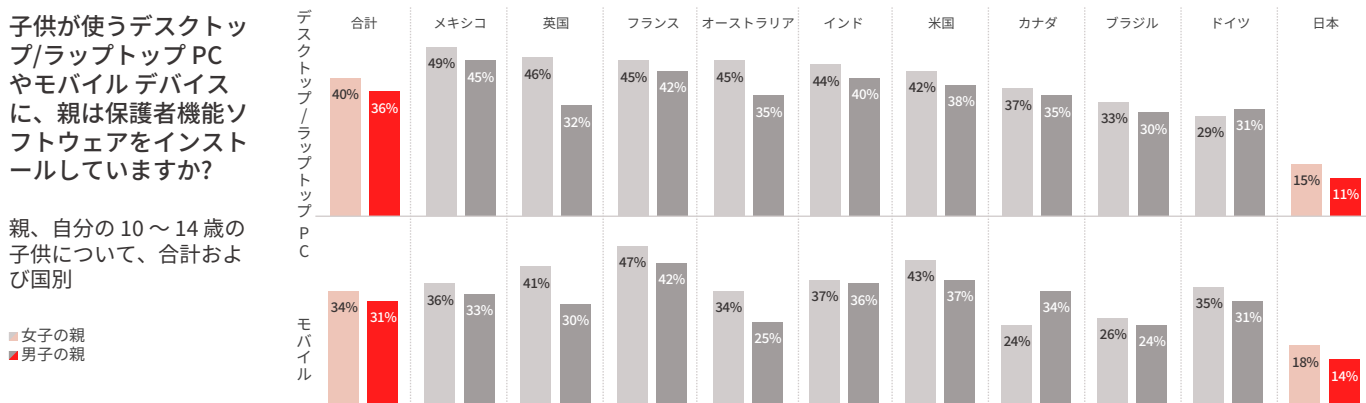
ここでも、日本の親子からの報告と世界的な報告には類似の関係があり、日本の親は世界平均の 21% より 13% 低く、また子供についても世界平均の 10% より 6% 低くなっています。



比較 5: ジェンダーによる保護のバイアス

世界的に見ると、男子に比べて女子のほうが保護や監視の目が行き届いており、日本でもこれは同様ながら、男子のほうがオンラインの脅威を多く経験しています。

保護者機能ソフトウェアの有無を指標にすると、パソコンでもスマートフォンでも、世界的に女子のほうが男子よりも保護されていることがわかりました。この点は日本でも同様ですが、他国に比べて保護者機能ソフトウェアの利用率は圧倒的に低くなっています。パソコンでは、女子の 15% が保護者機能ソフトウェアをインストールされているのに対し、男子は 11% であり、4% の差があります。この差はモバイルでも同じで、女子が 18%、男子が 14% と、その差はやはり 4% でした。



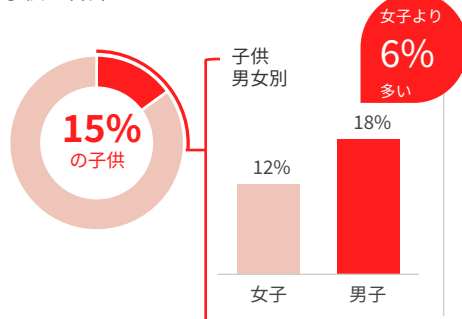
PC7. 子供が使うデスクトップ/ラップトップ PC に対して、次のいずれかのセキュリティ対策/プライバシー対策を実行していますか？該当するものをすべて選択してください。(複数回答可) 保護者機能ソフトウェア (ベース: 10～14 歳でデスクトップ/ラップトップ PC を使用している子供を持つ親、n=3,569) | PC8. 子供が使うモバイル/スマートフォンデバイスに対して、次のいずれかのセキュリティ対策/プライバシー対策を実行していますか？該当するものをすべて選択してください。(複数回答可) 保護者機能ソフトウェア (ベース: 10～14 歳でモバイル/スマートフォンデバイスを使用している子供を持つ親、n=5,740)

この差は、保護者機能以外の保護および監視機能にも当てはまります。最も顕著なのは、10 歳から 14 歳の子供が閲覧する Web サイトやアプリのチェックです。女子に対してそうしていると回答した親は 43% で、男子については 37% でした。一方、スマートフォンの通話履歴やメッセージ履歴のチェックに関しては、男女とも 22% と、日本でも低年齢の子供に対する扱いは変わりません。総じて、日本におけるジェンダー バイアスは、他の国よりも少ないながらも、依然として存在していることがわかります。

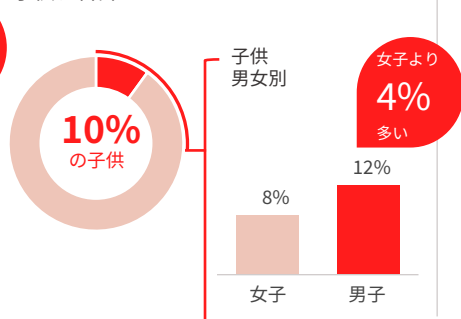
レポート

なお、こうしたジェンダー差は、世界的に男子のほうが女子に比べて高い確率でオンラインの脅威を経験していると報告していることも踏まえて考慮する必要があります。

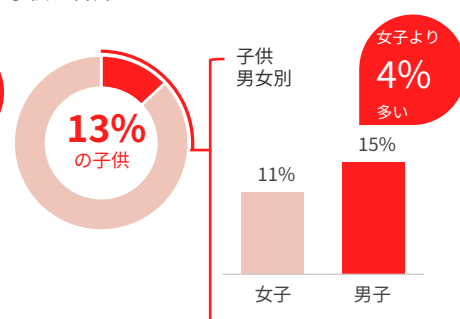
オンライン アカウントの 窃盗未遂を経験した 子供、合計



金融情報の漏えいを経験した 子供、合計



個人データの不正利用を経験した 子供、合計



C16A. これまでに、オンラインアカウント(ゲーム、SNSなどで)の窃盗未遂を経験したことはありますか?(ベース: 子供、n=12,030)

C17A. これまでに、金融情報(銀行、クレジットカード、パスポート、その他の個人情報)の漏えいを経験したことはありますか?(ベース: 子供、n=12,030)

C18A. これまでに、個人データの不正利用(スパム、詐欺、自分の連絡先へのウイルス送信未遂)を経験したことはありますか?(ベース: 子供、n=12,030)

最終的に、オンラインでの保護と親による監視は子供たちにとってプラスであるという結果が示唆されています。



世界的に見ると、男子に比べて女子のほうが保護や監視の目が行き届いており、日本でもこれは同様ながら、男子のほうがオンラインの脅威を多く経験しています。





2022 年版 マカフィー Connected Family Study
Report の全文と世界各国の調査結果は、
[こちら](#)から無料でダウンロードできます。

調査手法について

2021 年 12 月、McAfee LLC は、ネット接続している家族の成員（個人および家族単位）に対して、デジタル参加とオンライン保護に関する考え方と行動に関する調査を実施しました。

親と子を対象としたグローバル調査であり、子供には親と一緒に回答してもらいました。

親と子を一緒に調査しましたが、親に先に回答してもらい、続いて同意を得たうえで子供に回答してもらいました。

これは、個人の集まりではなく、ネット接続している家族に対する調査の結果です。

複数の国で、10 歳から 18 歳の子供を持つ 15,500 人の親と、その子供 12,000 人以上が調査に参加しました。

調査は、2021 年 12 月 13 日～ 29 日に、10 カ国の 15,500 人の親と 12,057 人の子供を対象として、MSI-ACI がオンライン アンケートで実施したものです。

マカフィーについて

マカフィーは、オンライン保護の世界的なリーダーです。デバイスではなく、人を保護することに尽力しています。当社のソリューションはお客様のニーズに適応し、お客様が統合された使いやすいソリューションを通じて安心してオンライン生活を体験できるよう支援します。

オンライン保護の詳細については、mcafee.com/blogs をご覧ください。